

平成30年度中野区学力にかかわる調査の結果について

1 調査の趣旨

- 各学校が児童・生徒一人ひとりの学習状況を踏まえ、教育課程や指導の改善・充実を図る。
- 児童・生徒自身が調査の結果を基に、学習上の課題を認識し、その後の学習に役立てる。
- 教育委員会が各教科の目標や内容に照らした学習の到達状況を把握し、区内小・中学校における学力に関わる課題を明らかにすることにより、今後の施策及び事業に生かす。

2 調査の実施概要

- (1) 対象学年及び教科 ※ 調査範囲は前年度の学習範囲

学年 対象人数(人)	小2 1,562	小3 1,629	小4 1,507	小5 1,475	小6 1,404	中1 970	中2 979	中3 968
国語	○	○	○	○	○	○	○	○
社会					○	○	○	○
算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	○
理科					○	○	○	○
英語							○	○

- (2) 実施方法 ペーパーテスト形式による調査
 (3) 実施時期 小学校：平成30年4月9日～13日の中で1日 中学校：平成30年4月13日

3 調査の方法・内容

- (1) 本調査では、学習指導要領の目標及び内容の学習状況を把握するため、教科の観点ごとに問題を作成した。
 (2) 出題した学習内容や問題の形式、難易度等を考慮し、「おおむね満足である状況」を示す数値(目標値)をあらかじめ目標として設置した。この目標値に到達した児童・生徒の割合(通過率)を基に、学習状況の把握に努めた。
 ※本調査では、通過率が70%であれば、区内の70%の児童・生徒が、「おおむね満足できる状況」にあることを示しており、全ての教科の各観点の通過率を70%以上にすることを目指している。

4 調査結果の概要

- (1) 小学校・中学校ともに、全学年・全教科の平均正答率は、目標値と同程度もしくは目標値を上回っていた。観点別に見た場合、国語で小学校2年生の書く能力が目標値を下回った。
 (2) 通過率が70%以上の項目は、全86項目中57項目で、昨年度、一昨年度に比べ達成した項目数が増加した。教科別では算数・数学が24項目中22項目(昨年度18項目)、理科は12項目中3項目(昨年度1項目)、英語は6項目中6項目(昨年度5項目)が増加した。校種別では、小学校では昨年度32項目から今年度35項目と3項目増加し、中学校では昨年度22項目、今年度22項目と同数だった。

年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
項目数(全86項目)	52	54	57
項目数の割合(%)	60.5	62.8	66.3

(3) 課題

- ①国語では話の内容の中心や意図を読み取る問題、社会や数学では、複数の資料や事象間の関連性を考える問題、理科では実験結果を基に考察する問題等の正答率が低い。また、国語や英語では、読み取ったり考えたりしたことを、自分の言葉で表現する力に課題が見られ、無解答率も高い傾向がある。
 ②社会及び理科については、学習上重要な語句や用語の理解を問う問題において、例年に引き続き課題が見られた。

5 今後の対応

- (1) 本調査は全ての項目で通過率70%を達成することを目標としている。「新しい中野をつくる10か年計画」(平成28年4月、中野区)では、経過目標として以下の成果指標と目標値を示した。

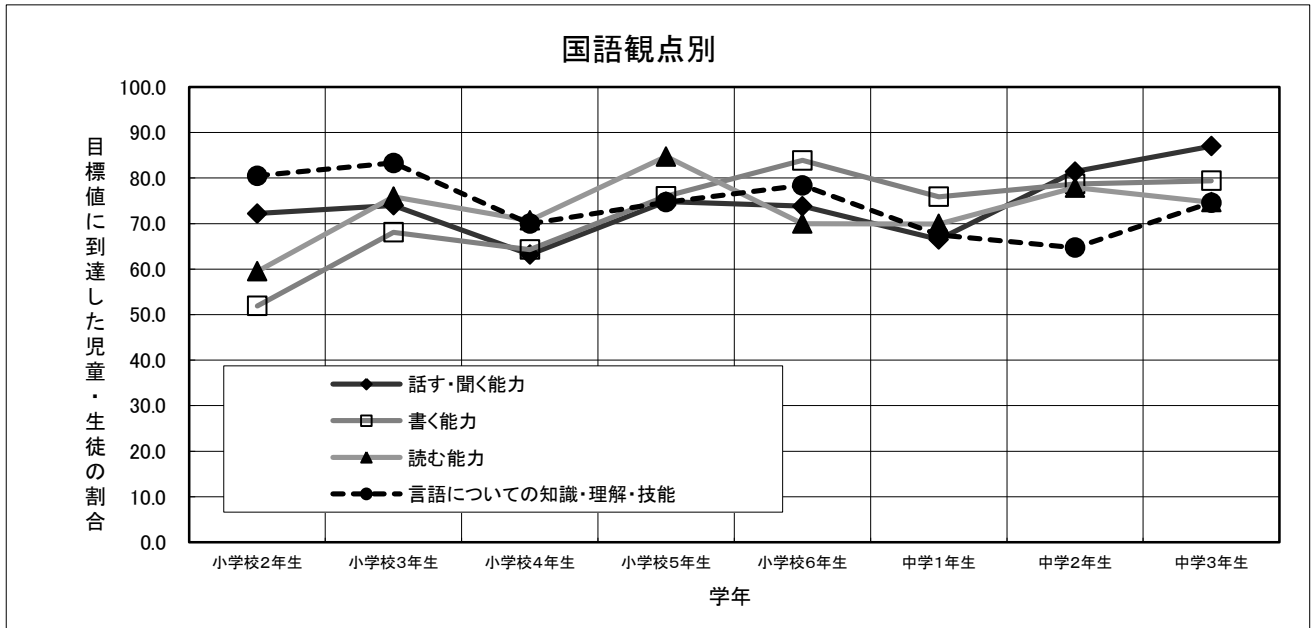
年 度	平成26年度実績	平成32年度	平成37年度
項目数(全86項目)	38	61	69
項目数の割合(%)	44.2	70	80

達成できていない項目については、各学校の児童・生徒の実態に応じた詳細な分析を行い、具体的な取組を検討していく。

- (2) 中野区全体の調査結果については、教育委員会事務局で分析し、中野区教育委員会のホームページ上で公開するとともに、その解決策を研修会及び電子データ等で各校に提供する。
 (3) 大学教授及び専門性の高い教員で組織された学力向上検討協議会において調査結果を分析し、小・中学校に共通する課題を検討する。また、検討した課題を踏まえ、「小・中連携型授業改善プランモデル」を作成し、研修会において研究報告をするとともに、研究資料等を電子データで各校に提供する。
 (4) 教員研修(特に若手教員育成研修や中堅教諭等資質向上研修)の充実に努め、教員の授業力向上を図る。

6 調査結果

(1) 国語



【授業改善の視点】⇒「相手意識や目的意識をもち、自他の考えを明らかにしながら、分かりやすく表現する力の育成」

◆結果の概要

- どの観点も、目標値に到達した児童・生徒が70%に達している学年が多く見られ、小学校5年生、6年生、中学校3年生では、全ての観点で目標値に達した児童の割合が70%を上回った。

◆課題

- 「話すこと・聞くこと」については、話の内容を正確に聞き取らせるとともに、その話の内容の中心や意図は何なのかについて考えさせることが必要である。
- 「書くこと」については、小学校低学年から経験や想像したことの中から書くことを決めて文章を書いたり、自分の考えが明確になるように文章を書いたりする体験をさせることが求められる。
- 「読むこと」については、事柄の順序や文章構成、書き手の意図を考えながら内容を読み取る力を身に付けさせることが課題である。

◆課題への対応

- 話し手が伝えたいことと自分にとって必要な情報の両方を意識しながら話を聞くとともに、自分の考えとの共通点や相違点は何かを考えながら、相手の話を注意深く聞き取ることでできる学習活動を取り入れる。また、インタビューの際は、調査等の目的に応じて質問する内容を整理しておくことなど、事前にインタビューメモを作成する。
- 各教科等の学習や子どもたちの日常生活での経験などと関連させ、一人ひとりにとって「書くこと」のよさを実感できるような学習活動を意図的に展開する。さらに、書いた文章を子どもたち同士で読み合い、書く目的や意図に応じた文章構成や表現になっているかについて相互に助言する活動を取り入れていく。
- どのような順序によって説明されているかを考えながら文章構造を大まかに捉え、それを手がかりとしながら内容を正確に理解することのできる学習活動を設ける。(内容の大体を捉える際には、音読したり読み聞かせを聞いたりすることも有効である。)

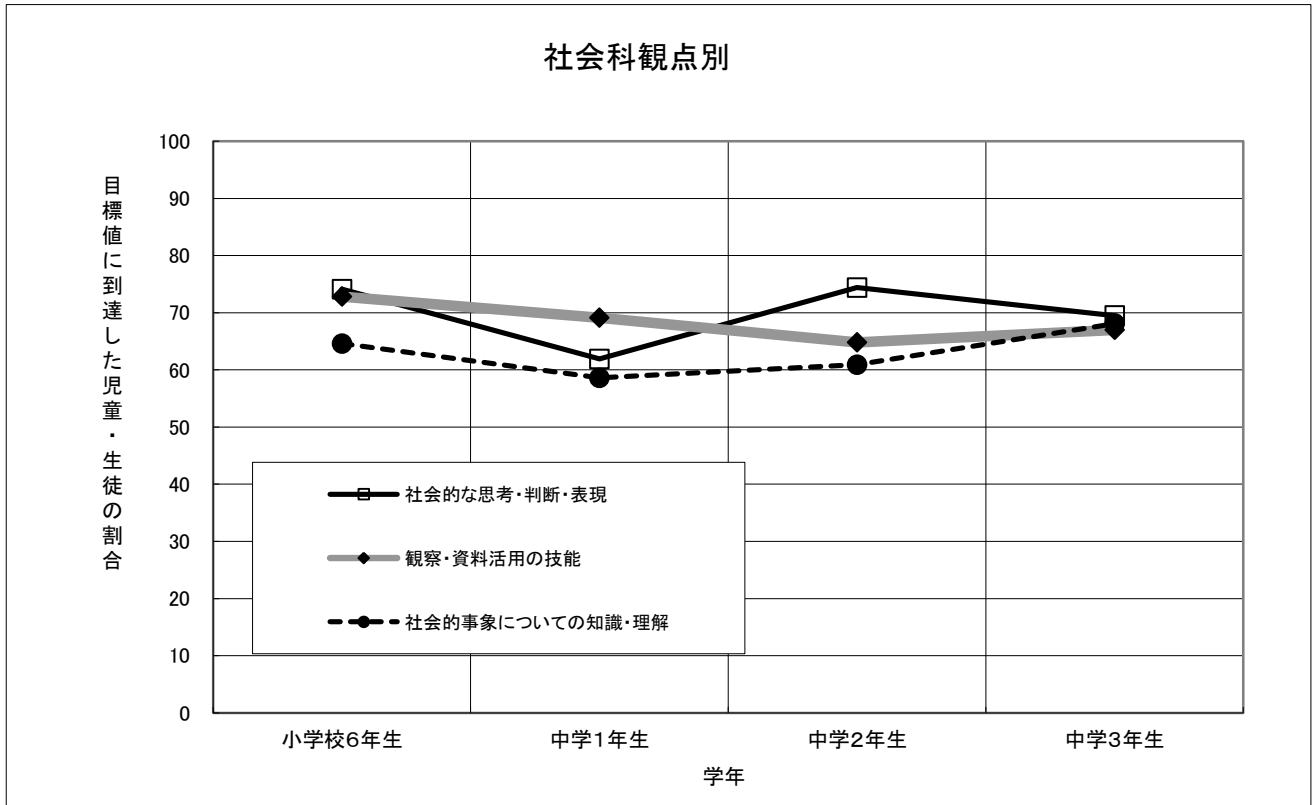
【参考】

	年度	話す・聞く力			書く力			読む力			言語についての知識・理解・技能		
		H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
小学校	2年生	74.3	73.2	72.2	66.3	63.6	51.9	60.1	61.0	59.5	83.2	81.4	80.5
	3年生	75.8	76.4	74.0	72.1	72.9	68.1	75.8	77.2	75.9	83.3	85.0	83.3
	4年生	62.9	63.2	63.2	71.8	69.0	64.3	70.4	74.3	70.7	70.0	74.9	70.0
	5年生	71.3	72.8	74.8	78.7	81.2	76.0	81.8	85.0	84.7	71.2	73.1	74.7
	6年生	75.1	73.6	73.8	83.8	83.9	83.9	69.5	65.6	70.0	78.1	74.7	78.4
中学校	1年生	67.7	68.1	66.5	79.3	73.5	75.9	70.4	72.3	69.9	69.5	71.4	67.5
	2年生	84.9	81.5	81.4	81.6	79.3	78.7	76.9	78.2	77.9	63.3	66.8	64.7
	3年生	85.6	87.2	87.0	74.3	78.7	79.4	77.2	71.9	74.7	69.1	76.6	74.6

※ 太字・斜体は、平成29年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(2) 社会



【授業改善の視点】⇒「社会生活について理解し、社会への関わり方について考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力の育成」

◆結果の概要

- ・中学校2年生では観点別の達成率において、「社会的な思考・判断・表現」の目標値に達した生徒の割合が70%を上回った。また、小学校6年生はどの項目も昨年度より上昇し、「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」は目標値に達した児童の割合が70%を上回った。
- ・一方、この3年間の結果から、どの学年においても「観察・資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」は、目標値に達した児童・生徒の割合が70%を超えた項目が少ない。

◆課題

- ・「地理的分野」については、複数の資料を読み取ったり、読み取った事象間の関連性を考えたりする中で、自然環境、文化、都市、産業の特色等に関する知識を確実に習得する学習が必要である。
- ・「歴史的分野」については、年表などの資料から社会の出来事や変動等、各時代の特色について習得した知識を結び付けて適切に整理する学習が求められる。

◆課題への対応

- ・1単位時間や単元を通して学習してきたキーワードを用いて、児童・生徒自身が自分の言葉で学びとったことをノートに記述したり、発言したりする学習活動を取り入れる。
- ・「47都道府県の名称と位置」「世界の大陸と主な海洋の名称と位置」について、小学校段階から関連する学習で適切に扱い、小学校卒業までに確実に身に付け、中学校で活用できるようにする。
- ・実体験を伴うことが難しい教科であるが、観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習に確実に取り組む。また、観察や見学、聞き取りなどから分かったことや考えたことなどを適切に表現する活動を効果的に指導計画に位置付け、社会的事象について考察したり、表現したりする学習活動のさらなる充実を図る。

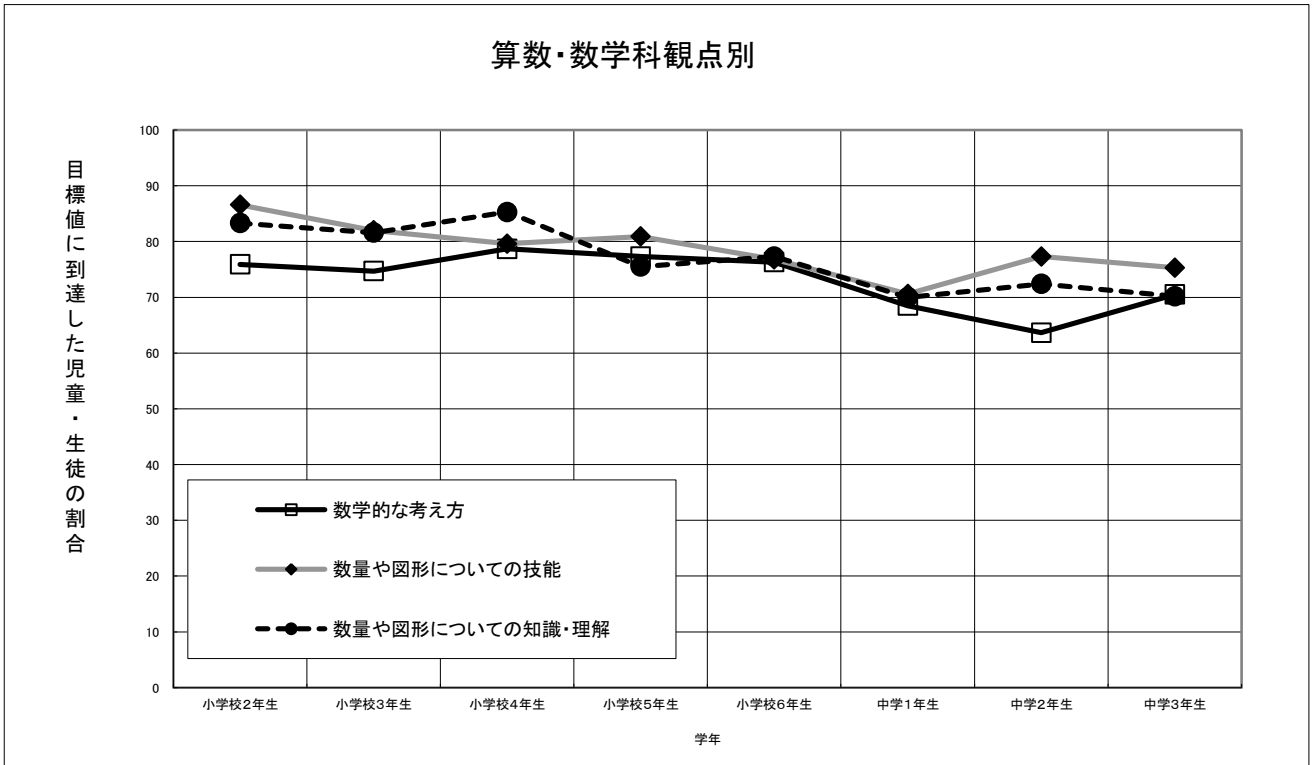
【参考】

		社会的な思考・判断・表現			観察・資料活用の技能			社会的事象についての知識・理解		
年度		H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
小	6年生	72.5	72.5	74.1	72.1	70.2	72.8	64.6	62.9	64.6
中学校	1年生	63.3	64.0	61.9	64.8	70.3	69.1	58.0	61.6	58.6
	2年生	68.0	73.2	74.4	64.3	62.6	64.8	60.6	60.7	60.9
	3年生	67.5	74.5	69.5	71.8	69.2	67.0	61.6	69.5	68.1

※ 太字・斜体は、平成29年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(3) 算数・数学



【授業改善の視点】⇒「基礎的な内容の定着と筋道を立てて考えたことを表現する力の育成」

◆結果の概要

- ・小学校では、全ての項目で目標値に到達した児童が70%に達した。また、中学校では、「数量や図形についての技能」と「数量や図形についての知識・理解」の項目が全学年で70%を上回った。

◆課題

- ・「数学的な考え方」の観点においては、問題の趣旨を理解し、算数・数学における言葉や式を用いて、論理的に考察したことや統計的に捉えたことを表現する力を身に付ける必要がある。
- ・「数量や図形についての技能」の観点においては、分数を含む四則計算、作図の仕方、連立二元一次方程式の解き方について理解し、様々な場面で活用できるようにすることが求められる。
- ・「数量や図形についての知識・理解」の観点においては、平均や割合の意味、比例と反比例の関係、代表値の特徴や概数の表し方に対する理解と具体的な場面との関連付けが求められる。

◆課題への対応

- ・根拠を基にして筋道を立てて考えたことを説明したり、話し合いにより高めたりしながら、問題を解決していく数学的活動を授業で実践することで、「数学的な考え方」を深める。
- ・東京ベーシックドリルやフォローアップシート等を活用することで、「数量や図形についての技能や知識・理解」の定着を図る。
- ・全小・中学校で実施している習熟度別少人数指導において、児童・生徒一人ひとりの課題を把握し、個に応じた指導を充実することで、児童・生徒が自ら問題を解決しようとする意欲や能力を高める。

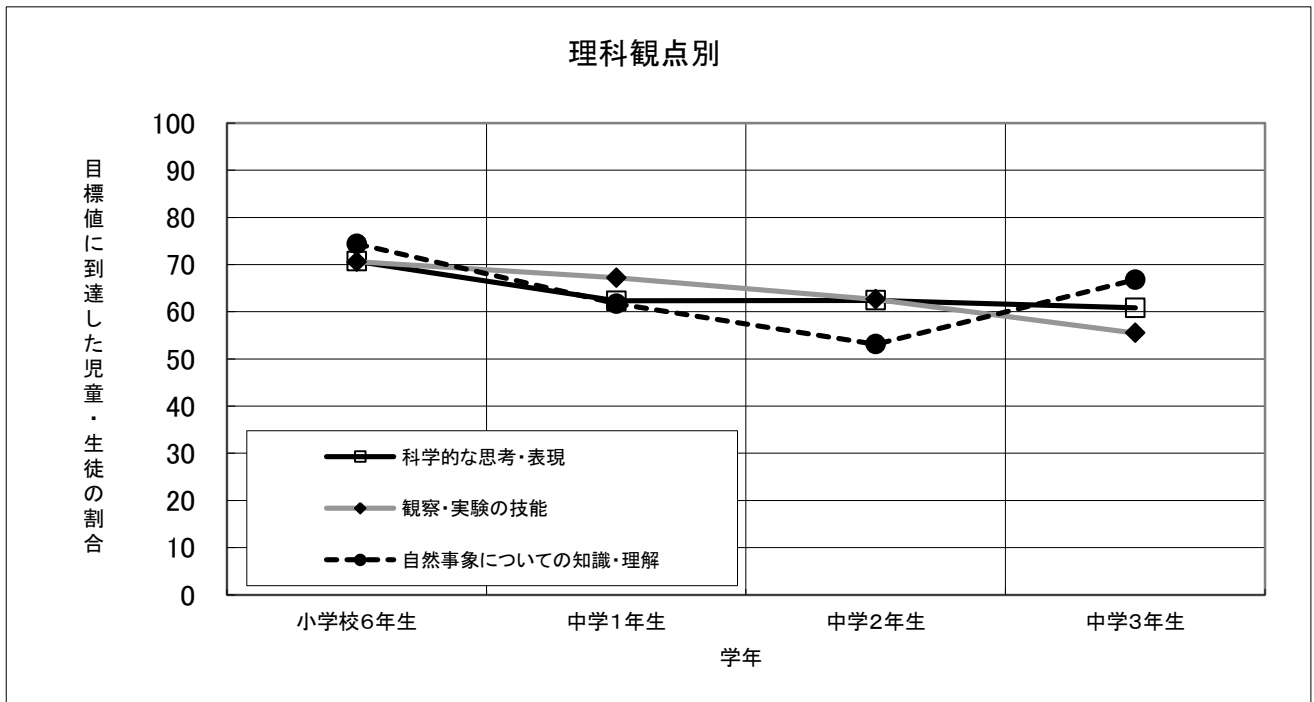
【参考】

	年度	数学的な考え方			数量や図形についての技能			数量や図形についての知識・理解		
		H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
小学校	2年生	75.4	74.2	75.9	88.5	88.4	86.6	84.2	83.2	83.3
	3年生	76.5	77.0	74.7	82.4	82.4	82.0	80.8	81.2	81.6
	4年生	80.5	78.6	78.7	83.0	82.8	79.6	85.1	85.7	85.3
	5年生	76.1	77.0	77.3	80.2	81.9	80.9	74.2	75.7	75.5
	6年生	76.5	75.6	76.3	76.6	75.5	76.8	77.4	74.7	77.3
中学校	1年生	71.2	69.6	68.5	74.4	74.7	70.6	67.5	66.0	70.0
	2年生	58.6	63.7	63.7	71.3	73.1	77.3	67.1	68.7	72.4
	3年生	64.6	67.6	70.5	71.7	72.7	75.3	64.8	69.2	70.2

※ 太字・斜体は、平成29年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(4) 理科



【授業改善の視点】⇒「観察・実験に主体的に取り組み、結果を思考・表現する力の育成」

◆結果の概要

- ・目標値に達した児童・生徒の割合は、小学校では全ての観点で70%を上回った。
- ・中学校では2学年の観察・実験の技能の観点が昨年度より上回ったが、その他の観点では昨年度より下回った。

◆課題

- ・「科学的な思考・表現」では、児童・生徒自身が条件を制御して実験の計画を立てたり、実験結果から考察したりすることに課題がある。
- ・「観察・実験の技能」では、観察器具や加熱器具、道具等の使用方法を習得することに課題がある。
- ・「自然事象についての知識・理解」では、植物や動物の体の中のつくり、天体・気象、岩石のでき方など、児童・生徒が実際に観察することが難しい単元の内容を理解すること課題がある。また、理科では類似した言葉や複雑な名称の語句が多く、科学的な重要語句の定着を図る必要がある。

◆課題への対応

- ・児童・生徒に主体的に取り組ませるために、問題は児童・生徒自身に設定させる。また、「変える条件」「変えない条件」を基に実験の計画を児童・生徒自身が立てたり、予め結果を記入する表の枠を作成したりすることで、実験の全体の過程を理解させ、活動の見通しをもたせる。
- ・結果を考察する場面では、児童・生徒が自分の考えを、友達と共有したり、検討したりして、考えを改善していく活動を取り入れることが大切である。そのためには教師が意図的に考える時間を確保できるように工夫をする。
- ・技能の習得では体験の頻度を増やすために、観察・実験では、個人・ペアで実験を行えるように計画的に器具を準備する。操作の際には、どうしてその操作をするのか理由を関連付けて指導を行うことで定着を図る。また、教室にも虫眼鏡や顕微鏡を置き、児童・生徒が日常的に使用できるようにしたり、星座早見等を持ち帰り家庭でも使用したりするなど、使用しながら学べる環境の工夫に取り組む。
- ・資料を通して学習する内容では、ICT機器等を活用して、映像を通して児童・生徒にイメージさせることで理解を深めるよう工夫する。
- ・科学的な重要語句の定着を図るために、キーワードとして学習の振り返りを書かせ、日常生活等と結びつけながら自分の言葉として科学的な重要語句を説明ができるようにし、概念の形成を図る。

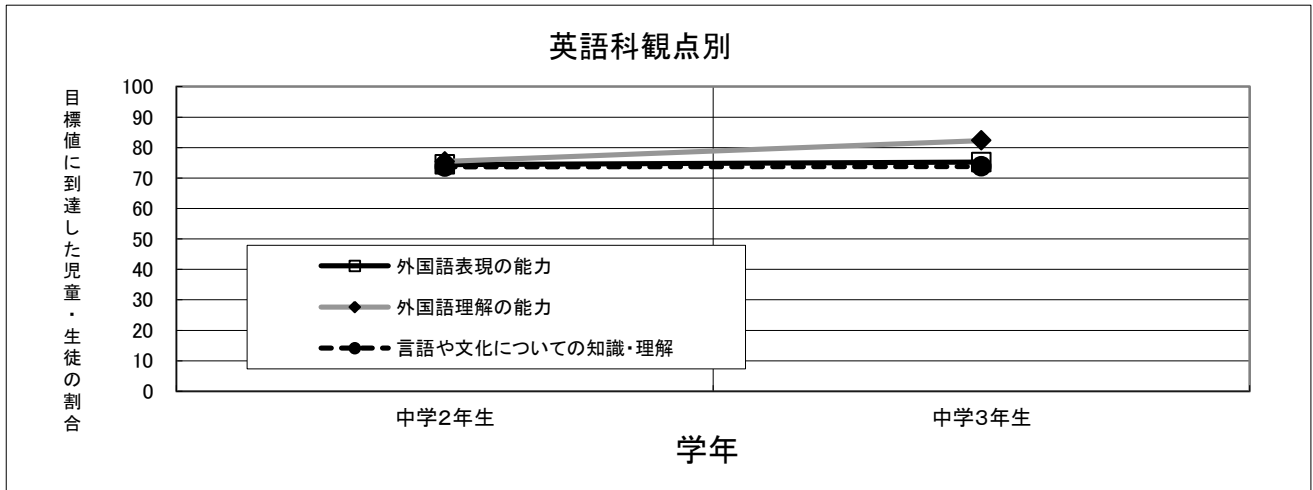
【参考】

		科学的な思考・表現			観察・実験の技能			自然事象についての知識・理解		
年度		H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
小	6年生	71.2	65.0	70.7	68.6	63.9	70.6	73.6	68.1	74.4
中学校	1年生	59.4	63.4	62.3	60.7	70.2	67.2	61.7	62.3	61.7
	2年生	62.2	66.3	62.4	61.5	59.1	62.6	64.0	59.1	53.1
	3年生	59.4	62.9	60.8	66.5	57.3	55.5	57.9	67.1	66.8

※ 太字・斜体は、平成29年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(5) 英語



【授業改善の視点】⇒「領域統合型言語活動のさらなる充実による、実際の場面等に応じた表現力の育成」

※領域統合型言語活動：「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の複数の領域を効果的に関連付ける統合的な言語活動

◆結果の概要

- ・観点別達成率において、全学年の全ての観点で昨年度を上回った。また、同一母集団による経年比較（第3学年の生徒が第2学年時との比較）においても、全観点で上昇している。特に「外国語理解の能力」は8%上昇しており、第3学年の達成率は82%を上回った。
- ・領域別達成率において、「聞くこと」は、第2学年75.7%、第3学年87.5%（第2学年時との比較14.1%増）と70%を上回った。「読むこと」は、第2学年67.5%、第3学年75.4%（第2学年時との比較6.4%増）であり、唯一第2学年が70%を下回った。「書くこと」は、第2学年73.0%、第3学年77.2%（第2学年時との比較5.8%増）と両学年ともに70%を上回った。
- ・「外国語表現の能力」の観点では、誕生日や天気をたずねる等、場面に応じて英作文を書く問題において、第2学年、第3学年ともに正答率が低かった。
- ・「外国語理解の能力」の観点では、長文の内容に関する質問に英語で答える問題において、第3学年の正答率が低く、無解答率が30%を超えていた。
- ・「言語や文化についての知識・理解」の観点では、「語形・語法の知識・理解」の問題（第2学年では「一般動詞過去の疑問文」、第3学年は「動名詞の形」）において正答率が低かった。

◆課題

- ・外国語を用いて正しく作文する力を身に付ける必要がある。
- ・読み取った情報を基に、適切に表現する力を育成することが求められる。
- ・基礎的・基本的な学習内容の定着を継続的に図っていく必要がある。

◆課題への対応

- ・4領域をバランスよく指導するとともに、領域統合型の言語活動をより一層充実させる。
- ・日々の授業において、パターンプラクティスやコミュニケーション活動を豊富に取り入れ、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、重要表現を日常的に活用させる。
- ・具体的な場面や状況に合った適切な表現を考えたり、話したりする言語活動の充実に加えて、英語を用いて書く学習活動を意図的・計画的に取り入れる。
- ・長文の概要や要点等、読み取った情報を基に、問いに対する適切な語法を用いて表現させる学習の充実を図る。
- ・教員研修を通して、教員一人ひとりの授業力向上を図る。具体的には、若手教員や外国語活動の指導を苦手としている教員を対象に「小学校外国語活動研修（入門編）」、各小学校の外国語活動中核教員を対象に「小学校外国語活動指導力向上研修」、各中学校の英語科担当教員を対象に「中学校英語教育指導力向上研修」を実施する。
- ・英語による言語活動を中心に据えた授業を引き続き実施するとともに、教師やALTの使用する英語が生徒にとって効果的なインプットとなるよう教師やALTの英語使用の場면을さらに工夫する。

【参考】

年度		外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解		
		H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
中学校	2年生	66.4	72.8	74.4	71.1	74.3	75.4	72.5	72.4	73.7
	3年生	72.5	75.1	75.2	73.4	78.9	82.3	64.0	68.9	73.8

※ 太字・斜体は、平成29年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。